

武蔵野市で発見！ 日本で2番目に古い土器が御殿山遺跡から出土

武蔵野市の歴史に新たな1ページが加わりました。
御殿山遺跡から出土した縄文時代草創期の土器・石器群が、
令和3年7月1日付で市指定有形文化財(37件目)に指定されました。



これらの土器・石器群が出土しました！



明治時代から、現在の武蔵野市と三鷹市にまたがる井の頭池周辺に、縄文時代の遺跡があることは知られていました。その後、昭和37(1962)年に武蔵野市史編さん事業によって市内初の発掘調査が行われ、縄文時代中期から後期初頭の竪穴住居跡が確認されています。

そして今回、平成16(2004)年の発掘調査で見つかった土器・石器群が、国内で2番目に古い約1万6000年～1万5600年前のものであることが判明しました。

これらの土器・石器群は、旧石器時代から縄文時代への移行期を研究する上で重要な資料であり、縄文時代初期の土器・石器の製作技術や、当時の技術と文化がどのように伝播していったのかを知る手掛かりとなります。

※「井の頭池遺跡群資料の炭素14年代測定結果報告」を無料配布しています。
詳しくは武蔵野ふるさと歴史館へお問い合わせください。

土器・石器が発掘された
御殿山遺跡第2地区N地点(御殿山1丁目2番3号)



なぜ何年前のものか分かるの？

土器などの出土品の年代を測定する方法の1つに、「放射性炭素年代測定」という方法があります。物質中に含まれる炭素14という原子の割合が5730年ごとに半減していく性質を利用し、出土品に含まれる炭素14の割合を計測して、何年前のものかを推定するものです。今回は土器に付着していた炭化物から出土品の年代が判明しました。

文化財を身近に感じてみよう！



市内を散策しながら、指定文化財などを巡る散策コースの案内マップを武蔵野ふるさと歴史館の窓口で無料配布しています。

文化財散策マップのダウンロードはこちらから

